

**◆その後の動向**

最近の報道で、中国政府が更なる飛行場整備の計画を立てていることが伝えられました。チャイナデーリーによると、第11次5カ年計画期間中(2006～2007)に全国に更に48の空港を開設すること。となると、第10次5カ年計画ですでに新設あるいは拡張された既存の空港を合わせ、国内の空港数は190にも達します。

航空会社の保有機数も700機以上増加する見込みで、課文で紹介した国産機が積極的に導入されるでしょうし、更なる開発の動きもあります。このように航空網が整備されるにつれ、航空貨物便の需要も年々2桁の伸びを示し、この状況は今後も10年以上続くと見られています。今年5月に日航が中国東方航空と提携し、東方航空の国内便や傘下のトラック輸送網とドッキングし、対中国貨物事業を拡大して経営の改善を図ろうとしているのもこういった背景があるからです。

航空網に限らず、最近の中国国内の鉄道や道路の整備は目を見張るばかりで、特に全国の各農村への自動車道路の整備は既に95%前後の村にまで及び、広大な農村地域を消費市場に組み入れ始めました。

商務部は2005年2月に“万村千郷”市場プロジェクトを発動し、農民が安心して買い物ができる店“農家放心店(チェーンスーパーやコンビニ)”を普及させ、生活の向上を促進するとともに、農村消費市場を育成して内需拡大に寄与しようと、まず、全国1150の流通企業が777の県をテスト地域に選んで農村チェーン経営システムを立ち上げ、3年以内に全国50%の村と70%の郷鎮に25万店のスーパーを設ける事を目標に掲げました。